

信州型UDを活用した 研究主任サポートブック

.....

信州型UDとは、全ての子どもが自分らしく学ぶことのできる授業づくり、学級づくりの基盤となる内容を長野県の先生方とともに創り上げていくものです。

この資料は、信州型UDを活用した**研修プラン**や、年間を通した**研修プランの組み立て方**（例）を紹介し、**研究主任の先生方**を応援するサポートブックです。**日常的な授業改善**につながる校内研修の実現にぜひ御活用ください。

.....



目次

| 項目 | | | ページ |
|------------------------|---|--------------------|-----|
| はじめに ～研究主任の役割って何だろう～ | | | 1 |
| 研修プラン | ① | よりよい授業づくりのために語り合おう | 3 |
| | ② | 先生方と学級づくりの知恵を交流しよう | 4 |
| | ③ | 「総合」を探究的にデザインしよう | 5 |
| | ④ | 合理的配慮について理解を深めよう | 6 |
| | ⑤ | 最新の教育動向を学ぼう | 7 |
| | ⑥ | 主体的・対話的で深い学びを実現しよう | 8 |
| 研修プランの 組み立て方 (例) | ① | エントリーコース | 9 |
| | ② | 充実コース | |
| | ③ | 探究コース | |



ケンタロウ先生
(研究主任)

研究主任の役割って何だろう？

研究主任2年目となるケンタロウ先生(31)は、研究主任の役割について悩みを持っています。そこで、長く研究主任をしてきたタクヤ先生(44)に相談することにしました。研究主任の役割について一緒に考えていきましょう。

研究主任に求められる役割について

タクヤ先生、研究主任の役割について教えてください。



タクヤ先生

研究主任は、日常の授業改善に向けて、向学の気風を起こしましょう。研究主任に求められる役割や力については、次の3つのポイントがあります。

- A 全職員との関係づくり(コミュニケーションを密にする心配り)
- B 授業改善に向けた取組(日常の授業改善につながる授業研究会の工夫)
- C 向学の気風を高める情報発信(教育情報やよい実践を紹介するづく)

「A 全職員との関係づくり」ってどうしたらいいのだろう

「全職員との関係づくり」とは、具体的にどんなことをすればよいのですか。



まず、校長先生や教頭先生の学力向上への思いを受け止め、具現する方策を考えることです。次に、困っていたり悩んでいたりの先生の相談にのることです。

タクヤ先生は、困っている先生や悩んでいる先生の相談にのっていたんですね！



私は「願いは高めに、ハードルは低めに」と「一人の百歩より、百人の一步」をモットーにしていました。相談をした後、若手の先生は具体的にどう取り組めばよいのか分からないことも多いので、何とか越えられそうな課題として「低めのハードル」を一緒に考えました。また、一人でも多くの先生を巻き込んでいくことを大事にしていました。一人のスーパー先生がいるよりも、全員の先生が確実な一步を踏み出す方が子どもたちにとっては幸せなのではないかと思っています。

「B 授業改善に向けた取組」について



授業改善に向けた具体的な取組について教えてください。



大きく6つのポイントがあります。

- ① 児童生徒の実態をもとに、校長先生や教頭先生にも指導いただき、**学力向上に向けた重点目標**を決めます。
- ② 重点目標をもとに、各教科における**授業改善のポイント**を明確化します。
- ③ 授業において**大切にしたい教師の姿勢や育てたい子どもの姿**などの共通理解を図ります。
- ④ 互いの授業を参観し合って**学び合う体制**をつくり出します。
- ⑤ **公開研究**（教育課程研究協議会等）を行う教科・領域への支援を行います。
- ⑥ **家庭学習の在り方**について、児童生徒に力の付く方法を提案します。

「④互いの授業を参観し合って学び合う体制をつくり出す」ための具体例を教えてください。



たとえば、「指導案は略案とし、授業参観用紙を用意して参観者に記入してもらう」「授業研究会を短時間行い、皆が意見を言いやすいようにワークショップ型の討議方法を企画し、最後に校長先生や教頭先生に指導いただく」などがあります。

「C 向学の気風を高める情報発信」について



情報発信はどのように進めていけばいいのでしょうか。



研究主任として「**情報収集のアンテナは高く、情報発信は分かりやすく**」を心がけるとよいでしょう。文部科学省や県教育委員会等の施策や全国の先進的な取組、先生方の授業公開等で見られた授業改善のよさを紹介してはどうでしょうか。



ケンタロウ先生
(研究主任)

研究主任の役割についてイメージは膨らんだでしょうか。

次のページから、信州型ユニバーサルデザインを活用したワークショップ型の研修プランや年間を通した研修プランの組み立て方(例)を紹介しています。ぜひ御活用ください。

研修プランに登場する先生方



アヤネ先生



ダイゴ先生



シンゴ先生

1 よりよい授業づくりのために語り合おう

ねらい 授業がもっとよくなる3観点に基づき、**日常の授業改善を図る**ため。

対象 校内

時間 45分

形態 個人→グループ→全体→個人

- 準備物**
- UDカード（ねらいを明確にする、めりはりをつける／ねらいの達成を見とどける）
 - ミニホワイトボード（グループ分）



校内の先生方の授業づくりのよさを全職員へ広げていきたい！



ケンタロウ先生
(研究主任)

●研修の進め方

| 研修の流れ | 時間 | 具体的な進め方 | 備考 |
|---|-----|--|--|
| 1 はじめに  アヤネ先生 | 5分 | <ul style="list-style-type: none"> ●今日のテーマは「よりよい授業のために語り合おう」です。 ●皆さんが「よりよい授業のために大事にしたいと思っていること」は何ですか。 ●私が大事にしたいと思っていることは、 <div style="border: 1px solid black; width: 200px; height: 20px; margin: 5px 0;"></div> です。 ●では、お隣の方と少し語り合ってみましょう（約3分）。 | ちょっとアレンジ 子どもにとって「よい授業」ってどんな授業だと思えますか？ |
| 2 個人で振り返る | 5分 | <ul style="list-style-type: none"> ●UDカードを使って日常の授業づくりを振り返ってみましょう。 ●3枚のカードからじっくり考えてみたいカードを1枚選び、表面の一番下の「『子どもの視点』に立って、自分の実践を見直してみよう」の欄を書いてください。 | ・カードを配布してください。 |
| 3 グループで交流する | 15分 | <ul style="list-style-type: none"> ●次にグループごとに交流しましょう。はじめに「①選んだカード ②そのカードを選んだ理由」を伝えて「『子どもの視点』に立って見直した内容」を交流しましょう。 ●交流した内容から、「全職員で意識してみたい試み」を選び、ミニホワイトボードにまとめてください。 | ・ミニホワイトボードを配布してください。 |
| 4 全体で共有する | 10分 | <ul style="list-style-type: none"> ●グループで交流した内容を全員で共有しましょう。「全教職員で意識してみたい試み」を発表してください。 | |
| 5 振り返り | 5分 | <ul style="list-style-type: none"> ●最後に、UDカードの裏面一番下の「試みたいこと」の欄に、「子どもの視点から授業づくりをする際に心に留めておきたいこと、新たな選択肢として試みたいこと」を書きましょう。 | |
| 6 まとめ | 5分 | <ul style="list-style-type: none"> ●それではまとめです。「よりよい授業のために大事にしていること」は何ですか。お隣の方と語り合ってみましょう。 ●これで今日の研修を終わります。ありがとうございました。 | ・他のテーマでも構いません。 |

2 先生方と学級づくりの知恵を交流しよう

ねらい 全員が力を発揮し認め合える学級づくりの推進を図るため。

対象 校内（学年会等で定期的に実施するのもよい）

時間 20分

形態 個人→全体→個人

準備物 UDカード（温かく受容的な学級）
 模造紙 付箋（1人3枚程度）



ふだんはなかなか語り合えない先生方の学級づくりの知恵を共有したい！



ケンタロウ先生
(研究主任)

●研修の進め方

| 研修の流れ | 時間 | 具体的な進め方 | 備考 |
|-----------|-----|---|---|
| 1 個人で振り返る | 5分 | <ul style="list-style-type: none"> 今日のテーマは「先生方と学級づくりの知恵を交流しよう」です。 付箋に「温かく受容的な学級づくりのために必要なこと」を記入してください。1枚の付箋に1つの内容を書いてください。UDカードは参考資料としてお読みください。 | <ul style="list-style-type: none"> カードと付箋を配布しておいてください。 |
| 2 全員で共有する | 10分 | <ul style="list-style-type: none"> こちらの模造紙をご覧ください。横軸は「すぐにできること、時間がかかること」、縦軸は「個人でできること、全職員で取り組みたいこと」です。 皆さん、当てはまりそうな場所に付箋を貼ってください。 (共有のイメージ) <div style="text-align: center;"> <p>全職員で取り組みたいこと</p> <p>個人でできること</p> </div> | <ul style="list-style-type: none"> 模造紙を黒板等へ掲示してください。 |
| 3 振り返り | 5分 | <ul style="list-style-type: none"> 最後に、UDカードの裏面一番下の「試みたいこと」の欄に、「子どもの視点から授業づくりをする際に心に留めておきたいこと、新たな選択肢として試みたいこと」を書きましょう。 | <ul style="list-style-type: none"> 研修後は印刷室など日常に見ることが出来る場所に掲示しましょう。 |

ちょっとアレンジ
時間があれば、
1人ずつ付箋の内容を
発表しながら貼る
方法もあります。

このゾーン(A)に分類された付箋は、全職員で共有していきたい。

このアイデアはすぐに使えそうだから、明日からさっそく実行してみたい。



アヤネ先生

ねらい **単元・題材レベルでの授業改善に向けた教材研究の充実**を図るため。

対象 校内

時間 60分

形態 個人→グループ→全体→個人

- 準備物
- 総合の単元計画（模造紙大、グループ分）
 - 参考となる「単元構想シート」（数種類）
 - UDカード（単元や題材のまとめを見通す）

単元・題材レベルでの授業改善
単元や題材のまとめを見通す

たとえば、**単元全体を貫くような学習課題を立てたのに、次のような子どもの姿を目にする**ことはないか、振り返ってみましょう。

ある？

「先生、今日の授業は何をやるの？」と聞いてくる。

前時までに学んだことを活用したり発想したりしていない。

こんな姿も

この姿が生まれる理由を「**子どもの視点**」から振り返ってみましょう。

子どもにとっては、1時間ごとの学習内容がバラバラになっていませんか？

その活動に、学んだことを活用したり発想したりする必要感があるでしょうか？

こんな理由も

「**子どもの視点**」に立って、自分の実践を振り返ってみましょう

総合を窓口に、授業のつくり方を学び、授業の構想力を高めていきたい！



ケンタロウ先生
(研究主任)

●研修の進め方

| 研修の流れ | 時間 | 具体的な進め方 | 備考 |
|-------------|-----|---|--|
| 1 はじめに | 10分 | <ul style="list-style-type: none"> ●今日のテーマは「『総合』を探究的にデザインしよう」です。 ●配布した「単元構想シート」を見てください。「過程」の欄に「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現」と探究のプロセスが記載されています。 ●まず、学年ごとに単元計画を読んで、「課題の設定」にあたる学習活動を困らしてみよう。 | <ul style="list-style-type: none"> ・単元構想シートと拡大した単元計画を配布してください。 |
| 2 学年ごとに協議する | 30分 | <ul style="list-style-type: none"> ●それでは、「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」にあたる学習活動を困らしてみよう。 ●該当する学習活動がなかったり、子どもの学びが充実していない学習活動があったりしたら、「こんな学習活動を計画してみたい」というアイデアを書き込んでいきましょう。 <p>(協議のイメージ)</p> <p>シンゴ先生: ここが「課題の設定」だと思うけど、子どもの課題になっていたと云えるだろうか (A)。</p> <p>ダイゴ先生: 「整理・分析」を充実させたいけれど、具体的にどのような学習活動を位置付けばよいだろうか (B)。</p> <p>アヤネ先生: 単元構想シートを参考に、学習活動を具体的に考えたい。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・実際に子どもがどんな学びをしていたかを語り合うように促してみよう。 ・アイデアは付箋に書くと、アイデアを分類したりまとめたりできるので便利です。 |
| 3 発表する | 15分 | <ul style="list-style-type: none"> ●それでは、学年ごとに協議した内容を発表しましょう。 | |
| 3 振り返り | 5分 | <ul style="list-style-type: none"> ●最後に、UDカードの裏面一番下の「試みたいこと」の欄に、「子どもの視点から授業づくりをする際に心に留めておきたいこと、新たな選択肢として試みたいこと」を書きましょう。 | <ul style="list-style-type: none"> ・カードを配布してください。 |

4 合理的配慮について理解を深めよう

ねらい 子どもの多様性に着眼した授業づくりや学級づくりの推進を図るため。

対象 校内

時間 50分

形態 個人→グループ→個人

準備物

- UDカード（困っている子どもへの合理的配慮）
- 『特別支援教育 学習指導要領サポートブック』（長野県教育委員会、平成31年3月）

小学校：「学びにくさのある子どもを窓口とした教科指導（算数）」p.56～61

中学校：「原学級との連携による交流及び共同学習（美術）」p.62～67

- 模造紙（グループ分）
- 付箋（2色、1人5枚程度）

合理的配慮
困っている子どもへの合理的配慮

たとえば、一方的な発言を繰り返す子どもの座席を最前列にしたのに、次のような子どもの姿を目にするのではないかと、振り返ってみましょう。

熱心に取り組む姿を我慢できず、すぐに立ち歩きたりする。

先生が個別に伝えた指示どおりに活動ができない。

こんな姿も

この姿が生まれる理由を「子どもの視点」から振り返ってみましょう。

自分のしゃべっていることを受け止めてもらえなかったらどう感じるでしょうか？

先生が伝えたことは、その子にとって本当に分かりやすくなっているでしょうか？

こんな理由も

「子どもの視点」に立って、自分の実践を見直してみよう。

子どもの姿を語り合い、子どもの見方を高めていきたい！



ケンタロウ先生
(研究主任)

●研修の進め方

| 研修の流れ | 時間 | 具体的な進め方 | 備考 |
|--------------|-----|--|---|
| 1 はじめに | 5分 | <ul style="list-style-type: none"> ●今日のテーマは「合理的配慮について理解を深めよう」です。 ●先生方は、「学びにくさのある子どもに対してどんな支援をしていますか。また、どんなことに難しさを感じていますか」。 ●私は、 <div style="border: 1px solid gray; width: 100%; height: 20px; margin: 5px 0;"></div>です。 ●では、お近くの先生方と少し語り合ってみましょう（約3分）。 | |
| 2 個人で事例を分析する | 15分 | <ul style="list-style-type: none"> ●それでは、各自で資料を読み、事例の中にある「学びにくさのある子どもに対する支援」を黄色い付箋に書き出してください。 ●また、「この場面では自分ならこうする」という支援を水色の付箋に書いてください。 | ・資料と付箋を配布してください。 |
| 3 グループで交流する | 25分 | <div style="border: 2px dashed gray; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin-bottom: 10px;"> <p style="color: red; font-weight: bold;">ちょっとアレンジ</p> <p>特定の学級について考えると、より具体的な支援が見いだされます。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ●では、グループごとに交流しましょう。模造紙に三角形を描き、3つに分けてください。 ●下から「全ての子どもに対応/補足的な配慮が必要な子どもに対応/個別対応で配慮が必要な子どもに対応する支援」に分類していきましょう。 | <div style="border: 1px solid gray; padding: 10px;"> <p style="color: red; font-weight: bold;">(共有のイメージ)</p> <p>個別対応で配慮が必要な子どもに対応する支援</p> <p>補足的な配慮が必要な子どもに対応する支援</p> <p>全ての子どもに対応する支援</p> <p style="text-align: right;">アヤネ先生</p> </div> |
| 4 振り返り | 5分 | <ul style="list-style-type: none"> ●最後に、UDカードの裏面一番下の「試みたいこと」の欄に、「子どもの視点から授業づくりをする際に心に留めておきたいこと、新たな選択肢として試みたいこと」を書きましょう。 | ・カードを配布してください。 |

5 最新の教育動向を学ぼう

ねらい **一人一人の子どもに応じた学び**の実現を図るため。

対象 校内

時間 20分

形態 全体→個人→グループ

- 準備物
- UDカード（個別最適化された学びの実現）
 - 動画1（例）Society5.0に関する動画
 - ・「政府広報 Society5.0」で検索
 - トップページに動画が掲載されています。
 - 動画2（例）AI型タブレットに関する動画
 - ・「Qubena×麹町中学校」で検索
 - AI型タブレットを使った授業動画が掲載されています。
 - ・「2018年度未来の教室 実証事業（株式会社COMPASS）」による。

子どもに応じた多様な学び方
個別最適化された学びの実現

たとえば、タブレット端末のデジタル教材で学びを個別化したのに、次のような子どもの姿を目にするのではないが、振り返ってみよう。

NO

困っている部分を個別指導しようとしたのに断わられてしまう。

YES

黙々と学んでいる子どもが、寂しそうに見えることがある。

こんな姿も

この姿が生まれる理由を「子どもの視点」から振り返ってみよう。

子どもは先生に対して、新しい関わり方を期待しているのではありませんか？

自分の方だけで乗り換えざるを得ない不安を抱えているのではありませんか？

こんな理由も

「子どもの視点」に立って、自分の実践を見直してみよう。

新しい教育に進んでいく情報を共有したい！

ケンタロウ先生
(研究主任)

●研修の進め方

| 研修の流れ | 時間 | 具体的な進め方 | 備考 |
|-------------|----|--|----------------------|
| 1 はじめに | 5分 | <ul style="list-style-type: none"> ●今日のテーマは「最新の教育動向について学ぼう」です。 ●まず、未来の学校をイメージしてみましょう。次のうち、10年後に消える（なくなる）かもしれないものは何だと思いますか。 <ul style="list-style-type: none"> a 紙の教科書と紙のノート b ランドセル（中学校は「制服」など） c 宿題 d 学級担任 ●（手を挙げてもらったり理由を尋ねたりするとよいでしょう） | |
| 2 動画を視聴する | 5分 | <ul style="list-style-type: none"> ●では、未来の学校をイメージするための動画を紹介します。 1本目は、Society5.0に関する動画です。 2本目は、AI型タブレットの紹介動画です。 | ・準備しておいた動画を再生してください。 |
| 3 個人で考える | 2分 | <ul style="list-style-type: none"> ●視聴した動画を思い出しながら、配布したカードの表面と裏面を読んでみましょう。記述はしなくても構いません。 | ・カードを配布してください。 |
| 4 グループで語り合う | 8分 | <ul style="list-style-type: none"> ●では「個別最適化された学び」や「未来の学校」について意見交換をしましょう。 ●これで今日の研修を終わります。ありがとうございました。 | |

紙のノートが消えたら、代わりにタブレットを使うようになるのだろうか。



動画教材を有効に活用しましょう ～ご存知ですか？NITSのオンライン講座～

NITS（独立行政法人 教職員支援機構）では、全国の学校教育関係職員に豊富で質の高い研修機会を提供するため、いつでもどこにいても研修が可能となるよう「校内研修シリーズ」を始め、講義動画などの研修教材を提供しています。

校内研修で活用する場合は、20分の動画を研修の冒頭で視聴し、それを踏まえた研修を行うことが可能です。個人で活用する場合は、スマホやタブレットのQRコードアプリで読み込んでアクセスしてください。



6 主体的・対話的で深い学びを実現しよう

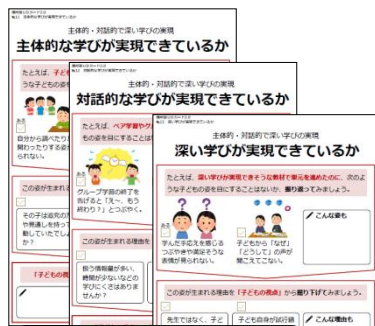
ねらい 資質・能力を育む主体的・対話的で深い学びの実現を図るため。

対象 校内

時間 ①授業参観（45分／50分など）
※授業動画を視聴して実施することもできます。
②研修60分間

形態 個人→グループ→全体→個人

準備物 □UDカード（主体的な学びが実現できているか／対話的な学びが実現できているか／深い学びが実現できているか）
□単元計画（本時案でも可） □模造紙（グループ分） □付箋（2色）



みんなが当事者となる
研修で学び合いたい！



ケンタロウ先生
(研究主任)

●研修の進め方（この研修は、「①授業参観（動画視聴）」とセットで実施してください）

| 研修の流れ | 時間 | 具体的な進め方 | 備考 |
|---------------|-----|--|--------------------|
| 1 はじめに | 5分 | ●今日のテーマは「主体的・対話的で深い学びを実現しよう」です。3枚のカードは参考資料としてお使いください。 | ・3種類のカードを配布してください。 |
| 2 個人で授業分析する | 10分 | ●まず、個人で授業分析を行いましょう。 (1) 本時見られた「主体的・対話的で深い学びの姿」や「それにつながる学びの姿」を水色の付箋に書きましょう。 (2) 次に、これらの学びを支えた「教師の手立て」をピンク色の付箋に書きましょう。 | ・2色の付箋を配布してください。 |
| 3 グループで授業分析する | 30分 | ●次に、グループで授業分析を行いましょう。縦に線を2本書いてください。 (1) 真ん中に「子どもの学びの姿（水色）」を時系列で貼っていきましょう。 (2) 次に「教師の手立て」について、左側に「単元レベル」、右側に「本時レベル」に分類して貼っていきましょう。 (3) 同時に、類似した内容をまとめたり、「子どもの学びの姿」と「教師の手立て」を関連付けたり、タイトルを付けたりしましょう。 (協議のイメージ) | |
| | | <div data-bbox="25 1342 592 1736" data-label="Image"> </div> <p>(参考) 信州型UD推進会議で作成されたもの。UDリーダーと校長先生がグループで授業分析しました。</p> | |
| 4 交流する | 5分 | ●他のグループの模造紙を自由に見て歩きましょう。 | |
| 5 振り返り | 10分 | ●3枚のUDカードの裏面一番下の「試みたいこと」の欄に、「子どもの視点から授業づくりをする際に心に留めておきたいこと、新たな選択肢として試みたいこと」を書きましょう。 | ・カードを配布してください。 |



ダイゴ先生

このような学びが実現されたのは、単元レベルでどんな工夫があったのでしょうか。



シンゴ先生

僕は、子どもの「問い」が単元を通してつながっていたことが大事だと思います。先生は、子どもに任せているだけじゃなくて、意図的な動きかけをしていますよね。


研修プランの組み立て方（例）

ケンタロウ先生
(研究主任)



1人の先生の10歩より、
10人の先生の
確かな1歩を目指そう！

- ・信州型UDを活用した研修プランを、学校のニーズに応じて組み合わせた年間研修計画の例をご紹介します。
- ・各コースは時間や形態等をアレンジすることができますので、各校の実態に応じてご活用ください。
- ・①～⑥は、本サポートブックで紹介した研修プランを指しています。

| | エントリーコース | 充実コース | 探究コース |
|---------------|--|--|---|
| 主なコースと ねらい | UDカードと動画教材を活用することで、 子どもの視点に立った授業づくり、学級づくり への着眼を目指します。 | 本サポートブックで紹介した 研修プランを全て行う ことで、全ての子どもが 自分らしく学べる授業づくり、学級づくり を目指します。 | 全職員が共通して話題にできる 生活科、総合的な学習の時間 を切り口にした研修を行うことで、 子どもが探究的に学べる授業づくり を目指します。 |
| 4月 | 〈この期間で1回設定〉 ・事前アンケートで、扱うUDカードを決める。 ・動画教材の「信州型ユニバーサルデザイン研修シリーズ」を使って、ミニワークを行う。 | ②先生方と学級づくりの知恵を交流しよう | ・総合的な学習の時間の全体計画、学年や学級の年間指導計画を確認する。 |
| 5月 | | ①よりよい授業づくりのために語り合おう（1回目） | ↑ ・探究のプロセスを意識し、特に、子どもが自分の事として課題を設定できるよう導入の充実を図る。 ・期待する学びが実現されない場合は、積極的に単元計画の見直しを行う。 |
| 6月 | | | |
| 7月 | 〈QRコード〉  | ④合理的配慮について理解を深めよう | |
| 8月 | | ③「総合」を探究的にデザインしよう（1回目） | ③「総合」を探究的にデザインしよう（1回目） ・研修後に夏休み明けの単元計画を構想する。 |
| 9月 | ④合理的配慮について理解を深めよう | ⑥主体的・対話的で深い学びを実現しよう | ↑ ・見直した単元計画をもとに、特に、個の追究（整理・分析）の過程の充実を図る。 ・期待する学びが実現されない場合は、積極的に単元計画の見直しを行う。 |
| 10月 | 〈この期間で1回設定〉 ・事前アンケートで、扱うUDカードを決める。 ・動画教材を使って、ミニ研修を行う。 | | |
| 11月 | | ①よりよい授業づくりのために語り合おう（2回目） | |
| 12月 | ②先生方と学級づくりの知恵を交流しよう | ③「総合」を探究的にデザインしよう（2回目） | ⑥主体的・対話的で深い学びを実現しよう ・総合的な学習野時間の授業参観を設定する。 |
| 1月 | 〈この期間で1回設定〉 ・事前アンケートで、扱うUDカードを決める。 ・動画教材を使って、ミニ研修を行う。 | | ↑ ・12月までの研修成果を生かして、次年度の年間指導計画や単元計画の構想を始める。 |
| 2月 | | ⑥主体的・対話的で深い学びを実現しよう（2回目） | |
| 3月 | ①よりよい授業づくりのために語り合おう | ⑤最新の教育動向を学ぼう | ③「総合」を探究的にデザインしよう（2回目） |